労農派マルクス主義 理論・ひと・歴史 下巻

労農派マルクス主義 理論・ひと・歴史 下巻_下载链接1_

著者:石河康国

出版者:社会評論社

出版时间:2008年7月

装帧:

isbn:9784784514670

［要旨］

世界的にも異色といわれた階級的な社会党・総評運動はどう形成され、なぜ後退し解体されたか。５５年体制下で、労農派は社会主義協会として、社会党・総評ブロックと社会主義を融合させようと努めた。左社綱領論争、三池闘争、日本的社会主義の錬成、ソ連崩壊と社会党・総評の解体へ。社会党左派の前進と後退の歴史と重ね反省。

［目次］

第５部

初期社会主義協会（社会主義協会の発足と左派社会党；「左社綱領」論争と高野実；社会党の統一）；第６部
統一社会党の強化へ（統一社会党と五五年体制の出発；山川均亡き協会へ；党再建論争と安保・三池の準備；安保・三池闘争と構造改革論争；協会組織の拡充）；第７部
日本的社会主義の錬成（「社会主義への道」と「協会テーゼ」；活動家の結集；分裂と再建）；第８部
「高成長」の破綻と社会主義協会規制（反転攻勢；高揚と暗転；社会主義協会規制と「参加・介入」論）；第９部
総評・社会党の解体（八〇年代前半の混迷；「護憲派」の反抗、ソ連の崩壊；社会党の解体と協会；これから）

作者介绍:

石河 康国 (イシコ ヤスクニ)

１９４５年生まれ。１９７１年東京大学日本史学科卒。以降、日本社会主義青年同盟本部役員、社会主義協会機関誌『社会主義』編集部、社会主義協会運営委員など歴任。現在、新社会党本部役員（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

目录:

労農派マルクス主義 理論・ひと・歴史 下巻_下载链接1_

标签

评论

虽然带有护教色彩，但是内容丰富的庞大的通史。下卷的主角自然是向坂逸郎和他的社会主义协会。战后日本四十多年社会巨变，向坂一派却始终是古典式的马克思列宁主义，这从一方面说固然如作者夸耀的非常有节操，另一方面也可以说是顽冥不化的可以。最后的社会党解体真是“忽喇喇似大厦倾，昏惨惨似灯将尽”啊。如今《社会主义》虽然还在办，彻底是没有存在感了

労農派マルクス主義 理論・ひと・歴史 下巻_下载链接1_

书评

労農派マルクス主義 理論・ひと・歴史 下巻_下载链接1_